「みんなで考える杭瀬川2015」を行いました！！

杭瀬川に残る旧河道を活用し、かつてあった緩流域環境（緩やかな流れ）の再生をどのように行うか、地域のみなさま、地域で活動する団体、及び行政が一緒になって考える「みんなで考える杭瀬川 2015」を行いました。

【開催日時】
平成27年2月14日(土) 14:00 ～ 15:40

【開催場所】
綾里地区センター

【参加人数】
37名の方が参加（地元自治会、市民団体、一般、及び行政関係者など）

◆主な質疑応答内容

【養老町祖父江地区】

Q1：底泥掘削を行った場合、堤防沿いの水路の水位が低下しホタルの生育に影響を与えるのではないか。

A1：堤防沿いの水路部は、湛水域であり本川からも水が供給されているため、底泥掘削後に水位が低下する可能性は低く、ホタルの生育環境への影響はない。

Q2：ホタル護岸の整備案は、①広く採用されている構造、または②ホタルの生育環境をより考慮した構造（水際への寄せ土の設置）のどちらを採用するか。【行政側から参加者への質問】

A2：治水を考慮し、①広く採用されている構造（寄せ土を設置しない）を採用する。

Q3：ワンドの規模が小さいのでは。

A3：ワンドの規模は、高水敷の利用状況を考慮し、極力大きくなるよう検討する。

Q4：ホタル護岸や散策路を整備すると利用者が増える可能性があるため、駐車場の設置を検討してほしい。

A4：緩流域環境整備後の利用状況を確認のうえ、駐車場の必要性について検討を行う。

【大垣市綾里地区】

Q1：綾里地区の散策路は上流から下流まで整備するのか。

A1：当該区間は、堤防法肩部に砕石舗装がされているため、今回散策路の整備は行わない。また、旧河道の下流部は、両側に民地が近接しているため、散策路の整備は行わない。しかし、当該区間の延長が長いため、休憩、展望スペースとしてベンチの設置をする。

Q2：流入水は、油等が混入しているか。

A2：油等は混入していないが、耕作地からの流入水のため土砂等が混入している。

Q3：湧水を促進するための管の挿入箇所、本数等はどのように考えているか。

A3：管の挿入箇所、本数は、施工時の湧水の流出具合を確認したうえで判断する。また、掘削のみで湧水が流出する箇所については、管の挿入を行なわない。

Q4：再生計画を評価するための、具体的な目標値等（魚類の数等）を設定しているか。

A4：具体的な目標値は設定していないが、工事後のモニタリング調査により、状態を把握しながら評価、改善策の検討が必要であると考えている。

【全 体】

Q1：工事時期はいつか。

A1：平成27年10月から平成29年３月までに行う予定である。
（工事の進捗状況により、多少工期が伸びる場合がある）
どちらの地区を先に行うかは未定。

Q2：モニタリング調査の対象、方法を教えて欲しい。

A2：モニタリング調査は、魚類、植物、ホタル等を対象に行う。
具体の調査方法は今後検討し、明確にする予定。
調査時期は、工事後５年間行う予定である。

Q3：維持管理はどうするのか。

A3：維持管理は、基本的には河川管理者である国交省が行う。
他地区では、行政が地元住民や民間業者と定期的に清掃活動を行うよう契約するアダプト制度を活用している事例もある。
（木曽三川アダプト　http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/adaputo/index.html）
環境面は、すぐに改善することが困難であるため、長い目で見守って欲しい。

みなさんの意見を反映し、今後、緩流域環境の再生に向けた工事を実施していきます。